

各専門部会（生活支援部会、当事者部会、就労支援部会、相談支援部会）でどのような活動を行っているか紹介します！

生活支援部会

テーマ	メンバー
① 親亡き後を見据えた取り組み ② 災害時の対応	加藤亮一（部会長）、新津健朗、篠木祥二、中野弘子、百目鬼英弘、土屋秀雄、瀧澤勤、柴田信

● 活動内容

親亡き後の体験談紹介

親亡き後の事例を情報共有することで、保護者等が元気なうちに準備しておくことや、支援を拒否する背景などについて考えていきます。まずは、各委員から身近な親亡き後の体験談や事例を紹介し、意見交換しました。

項目	体験談についての意見(一部抜粋)
知的障がい者について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子の依存関係が強いことが課題。ピア駅前や短期入所などの体験や、チームで支えることを保護者に理解してもらうことが必要。 ・ グループホームの退去を求めた保護者に対して、本人が拒否した事例がすごいと思った。本人が自分の人生について自分で言えることが重要。
精神障がい者について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族会の会員のほとんどは同居しているが、グループホーム入居者は、親との関係を断ってる人が多いと感じる。 ・ 後見人制度がうまく進まない中、家族信託という制度が注目されているので、勉強したい。
身体障がい者について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院などで保護者と離れる経験をしている。親から離れるためには、宿泊体験が必要。 ・ 現在30～50代の親は、子どもと離れて暮らすイメージがあるが、60代以上の親は、子どもと離れられない世代ではないかと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所先の「旅行」は、宿泊体験の場になっていると感じた。また、親自身が子から離れた生活を体験する機会にもなっている。 ・ チーム支援していく上で、相談支援専門員が継続して関わることと、その役割の大きさを感じた。 ・ 兄弟関係が難しいケースが多い。兄弟の関わりについても検討したい。

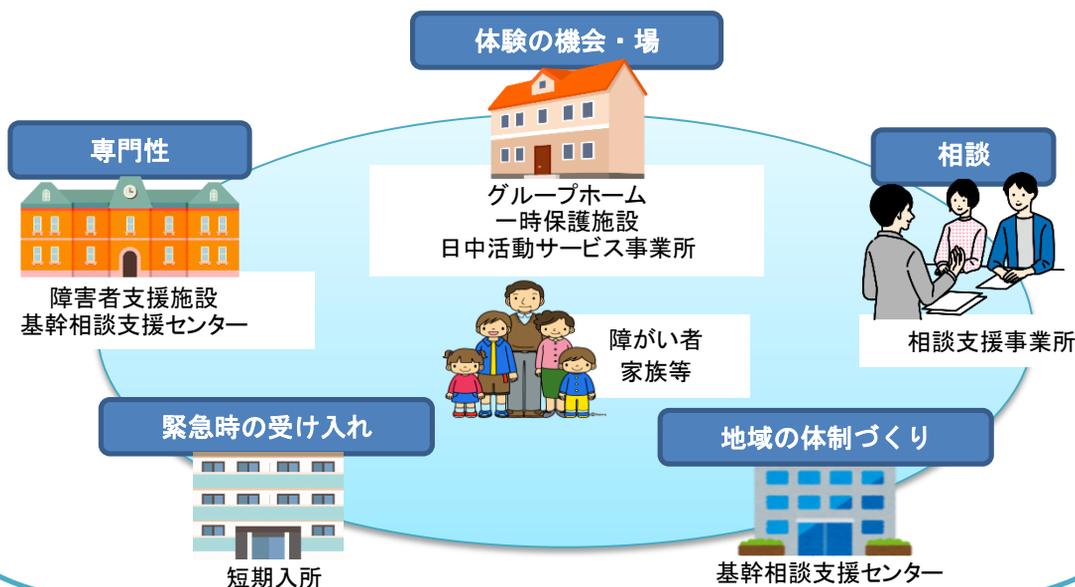
地域生活支援拠点の整備に向けた検討

平成30年度～令和元年度は、相談支援部会と生活支援部会の合同部会で、地域生活支援拠点の整備について検討し、「三鷹らしい地域生活支援拠点の整備に向けた検討結果報告書」を三鷹市障がい者地域自立支援協議会会長に提出しました。

●検討状況

開催日	内容
平成31年1月22日	地域生活支援拠点について
平成31年2月27日	地域生活支援拠点についての意見交換
平成31年3月20日	事業所アンケートの実施について
令和元年6月4日	事業所アンケートの実施について
令和元年7月2日	グループホーム連絡会について
令和元年9月5日	地域生活支援拠点の整備に関する課題について
令和元年10月24日	地域生活支援拠点の整備に関する課題について
令和元年12月16日	グループホーム連絡会について
令和2年1月30日	地域生活支援拠点の整備に向けた検討結果報告書について

●三鷹市における整備のイメージ



専門部会は、部会メンバー以外の方々もご参加いただけます。各部会の日程は、メールにてお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております！

【事務局】

三鷹市健康福祉部障がい者支援課

〒181-8555 三鷹市野崎一丁目1番1号

☎ 0422-45-1151 (内線2652)

✉ shien@city.mitaka.tokyo.jp

当事者部会

会場とZoomをつなぐ方法
で開催しています！

テーマ	メンバー
障がい者の声を集めて発信する。	山中博正（部会長）、福原理絵、鈴木俊夫、菅原健、檜垣知子、山崎勝弘、蟻坂静夫、南雲潤、安谷屋良雄

● 活動内容

障がい者向け防災ハンドブックの作成



障がい者にとっては、現状の防災マップだけでは情報が不十分と考え、障がい者向けの防災ハンドブックの作成を進めています。

ハンドブックの内容を考えるにあたって、まずは防災についての疑問点を解消するために、防災課と地域福祉課による説明会を実施し、基本事項を学びました。説明会では、避難所での要配慮者支援や避難行動要支援者事業などについての話がありました。

説明会で出た意見や質問（一部抜粋）

- ・ 自助の心構えが必要だと感じた。
- ・ 家具の転倒防止を取り付けてくれる業者はないか。
- ・ 在宅避難と避難所での避難は、どちらがよいのか。
- ・ 避難所に障がい者専用スペースがあると、周囲から障がい者ばかりが優遇されていると不満が募るのでは。心のバリアフリーをお願いしたい。
- ・ とっさのときに判断できるのか、避難所でどのような目で見られるのかという漠然とした不安がある。
- ・ 避難行動要支援者への具体的な支援体制はどうなっているのか。

令和4年1月時点でのハンドブックの案

<目的>

自分の身は自分で守るために、災害時に備えて、平時に確認しておくための手引き

<形式>

障がい種別で分けず、冊子として1冊にまとめる

<構成案>

- 1 はじめに
- 2 防災に関する情報
 - ・ 日頃の準備
 - ・ 地震発生時の行動、避難の判断 など
- 3 実践集
 - ・ 当事者部会の実践・体験レポート
- 4 Q&A
- 5 資料集
 - ・ 防災マップ、連絡先など
- 6 問い合わせ・相談窓口
- 7 おわりに



障がい者のためのしおりの改善点の検討

障がい者のためのしおりについて当事者の視点から検討し、こうすればもっと良くなるのではないかという意見を出しました。しおりは毎年改定されるので、すぐに改善できなかったことについても、引き続き市に検討してもらい、当事者にとってより良いしおりを目指したいと思います。

しおりについての意見(一部抜粋)	結果
冒頭にしおりの目的を掲載する必要がある。	反映されました
介護保険サービスと障害福祉サービスを1冊にまとめる。	分量がかなり多くなること、介護保険のしおりは別にあることなどから対応困難
関連するURL等を掲載し、最新情報へアクセスできるようにする。	引き続き検討
索引をつけて、キーワードから探せるようにする。	引き続き検討
身 知 など、ぱっと見て対象者が分かるような記号をつける。	等級によって利用できるサービスが異なるため対応困難
しおりを更新したことを広報みたかで知らせる。	反映されました

障がい者の声を紹介するチラシの作成

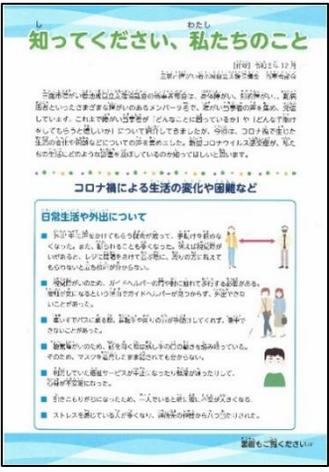
当事者部会では障がい者団体にも協力いただき、当事者の声を集めています。集めた声を紹介するため、「知ってください、私たちのこと」というチラシを作成しました。作成したチラシは、障害者週間のイベントでの配布、三鷹市のホームページへの掲載など、広く市民の方へ周知しました。



- 令和元年度作成
- まちなかや交通機関で
- ・困っていること
- ・みなさんをお願いしたいこと



- 令和2年度作成
- まちなかで
- ・手助けしてもらって嬉しかったこと



- 令和3年度作成
- ・コロナ禍による生活の変化
- ・みなさんをお願いしたいこと

相談支援部会

テーマ	メンバー
ライフステージによって切れ目のない支援を実現する。	大野通子（部会長）、岡田敏弘、村松深幸、高橋圭一、鶴田明子

● 活動内容

高齢分野との連携

障害福祉サービスと介護保険サービスの制度間で切れ目なく支援できるよう、平成30年度から高齢者支援課や地域包括支援センターと情報交換会や事例検討会を実施し、お互いのサービス内容や課題の共有などを図ってきました。このような高齢分野との連携は、第6期も継続していきます。

グループ討議（令和3年2月25日実施）

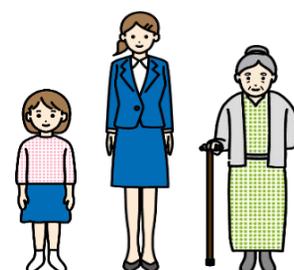
参加者	相談支援事業所、地域包括支援センター、高齢者支援課など34名
目的・内容	コロナ禍の現状を踏まえ、グループ討議を通じて、高齢分野との連携をさらに深める。 テーマ①「コロナ禍における支援の現状と課題」 テーマ②「コロナ禍におけるより良い支援について」
意見など （一部抜粋）	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍では、体調の悪化やストレス増加が顕著になった。・ マスクを着用することにより表情が見えづらく、利用者さんの状態把握が難しくなった。→支援困難度アップ・ Zoomを使用したカンファレンスや面会等、「感染対策を施したうえで、できることやる」という意識がうまれた。・ BCP(事業継続計画)を意識するようになった。

事例検討会（令和4年1月28日実施）

参加者	相談支援事業所、居宅介護事業所、地域包括支援センター、高齢者支援課、生活福祉課など60名
目的・内容	グループワークによる事例検討を通じて、「高齢者福祉」「障がい者福祉」「生活保護(生活困窮者支援)」の支援者が、どのような連携体制を整える必要があるか、などについて考える。
意見など （一部抜粋）	<ul style="list-style-type: none">・ 社会資源として夕方～夜のサポート、緊急の巡回などがあるとよい。・ 本人に向けての支援を組み立てる際に、支援者同士の話し合いの時間を持つなど、カンファレンスの手法なども検討していくことが大切では。・ 65歳になるときにスムーズに移行できるよう、障害福祉サービスから介護保険サービスへの流れや仕組みなどを整理してほしい。・ 立場や役割によって得意、不得意があるので、支援機関同士で連携していきたいと思っている。

子ども分野との連携

放課後等デイサービス事業者の増加など障がい児への支援が拡充する中で、より良い支援のためには、障がい児から障がい者への移行期における連携が重要と考え、子ども関連分野との連携を図りました。



情報交換会（令和2年11月9日実施）

参加者	相談支援事業所、放課後等デイサービス事業所、子ども発達支援センターなど30名
目的・内容	子ども発達支援センターや相談支援事業所、放課後等デイサービス等の役割や特徴について情報共有を図り、相互理解を深める。
意見など (一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども発達支援センター及び子ども家庭支援センターリボンの事業説明を受け、子ども関係部署の機能や業務等が理解できた。 セルフプランでサービス利用の方がおり、成人のサービス利用にあたりライフサイクルを通して、その人を知る支援者が不在になることが課題と感じた。 放課後等デイサービスについて、事業所ごとの特徴など理解が深まった。

事例検討会（令和3年9月8日実施）

参加者	相談支援事業所、放課後等デイサービス事業所、特別支援学校、地域包括支援センター、子ども発達支援センター、学務課など38名
目的・内容	グループワークによる事例検討を通じて、障がい児から障がい者への移行期にどのような連携体制が必要かなどについて考える。
意見など (一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこに、何を伝えるのか、全体像を共有する必要がある。連携マップがあるとよいのでは。 保護者、学校、計画相談、医療、子ども家庭支援センターなどを含めて、情報共有のためのケースカンファレンスが必要ではないか。 家族をまるごと支援できるような部署があるとよいのでは。 事例のように問題のある家庭がSOSをだせる相談支援体制の構築が必要。横のつながりを深めていくことが重要である。 学校で作成している「生活支援シート」が十分に活用できていない現状がある。「トライアングルプロジェクト(文部科学省)」を推進できるとより良い連携体制が構築できるのではないか。 支援が途切れやすい学校の入学・卒業時などの節目には、ケースカンファレンスなどで早めに支援者がつながれるとよい。 家族支援が必要な家庭もある。家族全体を支援する包括的な支援の窓口がないのは課題(ワンストップの窓口だと良い)。

就労支援部会

テーマ	メンバー
みたかではたらこう！ つながるプロジェクト	工藤勇太（部会長）、大木幸子、渡邊幸治、 海老原恵理子、加藤亮一

● 活動内容

共同受注の実現に向けて

就労支援部会では、これまで市内事業所の職員同士で、日々の迷いや悩みについての交換等を行う学習会などを開催し、働く上でのニーズや課題をとらえ、障がいのある方の就労について検討してきました。

そこで、今まででた意見を基に、**令和3年度は共同受注と短時間就労の2つのテーマについてモデルケースの実施に向け取り組んでいます！！**



● 学習会

(学習会の様子)

回	開催日	テーマ
第1回学習会	平成31年1月15日	一人一人の私らしい働き方、暮らし方
第2回学習会	令和元年5月21日	日々の就労・生活支援について迷っていること
		利用者に寄り添う支援と工賃アップの狭間でのジレンマ
		障がいに応じた多様な活動や社会参加をどう進めていくのか
第3回学習会	令和元年10月7日	夢を語ろう 日々の就労・生活支援について
		夢を語ろう 利用者に寄り添う支援と工賃アップについて
		夢を語ろう 障がいに応じた多様な活動や社会参加について

学習会では、事業所間のつながりを大切にし、今抱えている課題やその解決のアイデアを発信してきました。また、事業所職員の生の声を聞くことで、三鷹で働く魅力や課題の発見につなげてきました。

モデルケースを実施しました！

令和3年10月に共同受注のモデルケースを行いました！
市内の知的障がい者を対象とする4事業所、計10名の方に参加していただき、チラシやパンフレットの折り作業をしました。

〈作業スケジュール〉

10:30	利用者・職員集合
10:30～10:45	自己紹介・作業説明
10:45～11:10	午前作業①
11:10～11:20	休憩
11:20～12:00	午前作業②
12:00～13:00	昼休憩
13:00～13:40	午後作業①
13:40～13:50	休憩
13:50～14:15	午後作業②
14:15～14:30	片付け



3種類のチラシを
入れ込みます。
種類が多いので、
抜けがないよう慎
重に作業します。



参加後の利用者の様子

- モデルケースでの経験が自信になっている。
- 「次はいつ？」とまた参加したい様子。
- 賞状をもらえたことを喜んでいる。



作業後は
しっかり自分
たちで掃除
をしました。

参加した事業所職員の声

- いつもとは異なる環境で作業をしたので、最初は緊張していたようだが、それができたことで利用者にはとても刺激になっていた。
- 職員同士の交流も図れる良い機会だった。



最終日には、
賞状をもら
いました！

一言で「就労」といっても様々な形があり、それは障がい種別や人によってとらえ方が異なると、このモデルケースを通して改めて感じました。

就労支援部会として、障がいのある方の就労をどのように支援していけるかこれからも検討していきます。